

脩身論

後篇

T1A1

22

(W49)

脩身論後編卷一

阿部泰藏 譯

第一章

人間相互ノ職務ヲ論ス

此職務ヲ解キ明カスニ數説アリ
天ノ各人各國ニ與ヘタル賜ヲ見ルニ其樂ヲ得
ルノ具ヲ與フルト一様ナラス或ハカノ人ニ勝
レルアリ或ハ容貌ノ美ナルアリ或ハ風致オモイノ人
ニ超エタルアリ或ハ思想ノ強キアリ或ハ富ノ

巨イナルアリ其他枚舉スルニ違アラス故ニ此
一事ニ於テハ人ニ大ナル差異アリ
天是等ノ賜ヲ與フルト一様ナラサレハ何人ト
雖ハ他人ノ樂ヲ妨ケサレハ天ハ人ニ其賜ヲ用
ヒテ隨意ニ己レノ樂ヲ得ヘキ權ヲ與フル事一
様ナリ故ニ他人ヲ害セサレハ隨意ニ天ノ賜ヲ
用ヒテ己レノ樂ヲ求ムルノ權人皆一様ニシテ
毫厘ノ差異アルトナシ
此事ハ一例ヲ設ケテ容易ニ之ヲ説明スルト
得ヘシ茲ニ一人ノ親アリ慈ニシテ且賢ナリ其

諸子ノ性質各異ナルヲ察レテ其習慣ト品性ト
ニ從ヒ家産ヲ分ケテ一人ニ家ヲ與ヘ一人ニ土
地ヲ與ヘ一人ニ金ヲ與ヘ一人ニ教育ヲ與フ蓋
レ其志ハ諸子ヲシテ各其受ル所ノ物ヨリ十分
ノ樂ヲ得セシメント欲スルニ在ルヲ明カニシ
テ其親ノ與フル所斯ク一様ナラスト雖ハ互ニ
兄弟ノ産ヲ奪ヒ其樂ノ具ヲ犯スノ權ニ於テハ
敢テ之ヲ與フルトナク殊ニ父一人ノ子ニ他ノ
子ヨリ多クノ物ヲ與フルトモ之カ為メニ此子
其兄弟ニ逼リ強ヒテ其産ヲ奪ヒ不平均ヲレテ

更ニ甚タシカラシムヘキノ理アルナシ
人々相交ハルニ左ノ辨別ヲ知ルヘシ是人間相
互ノ職務ノ定則ナリ蓋シ人ハ皆天ノ己ニ與ヘ
シ其樂ノ具ヲ自ラ隨意ニ用フルノ權アリトス
故ニ又他人ヲレテ其天ヨリ受ケテ樂ノ具ヲ隨
意ニ用フルヲ得セシムヘレ人常ニ他人ヲ妨ゲ
ザレバ己ノ五官四肢精神家産評判ヲ自ラ隨意
ニ用フヘキノ權アルヲ主張ス故ニ又他人ノ此
權ヲ用フルルハ其妨ヲ為サスニテ其之ヲ用フ
ルニ任スヘシ若シ己ノ樂ヲ得ンカ為メ天ノ他

人ニ與ヘタル權ヲ犯ストキハ是レ人間相互ノ
職務ノ定則ヲ破ルナリ
經典ニ曰ク隣人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如ク
セヨト是レ此職務ヲ守ルヘキノ命スルナリ
孰ヲカ隣人ト云フ疎遠ノ人外國ノ人敵國タル
者ノ別ナク人類ハ總テ皆我隣人ナリ
何ヲカ隣人ヲ愛スル己ヲ愛スルカ如シト云フ
其義ヲ知ラント欲セハ先己ノ自ラ其身ヲ愛ス
ルノ如何ナルヲ問フヘシ蓋シ人皆天ノ己ニ與
ヘタル其樂ノ具ヲ隨意ニ用フルヲ好マサル者

ナク若シ人ノ為メニ妨ヲ受クルキハ其害ヲ被
ムルノ苦ヲ其心ニ覺ユルヲ甚レクシテ人ノ其
身ヲ愛スルノ方皆斯ノ如クナラサルナレ故ニ
其隣人ヲ愛スルモ亦斯ノ如ク為スヘクシテ隣
人ヲシテ其天賜ヲ隨意ニ用ヒシムルヲ願フ
亦己ノ之ヲ隨意ニ用フルヲ願フカ如ク隣人
ノ權ヲ犯サルハ見ルキハ亦己ノ權ヲ犯サル
ハ如ク自ラ其苦ヲ心ニ覺エ其意能ク此ノ如
クナルキハ他人ノ權ヲ犯スヲ欲セサルヲ己ノ
權ヲ犯スヲ欲セサルカ如ク他人ノ權ヲ愛スル

己ノ權ヲ愛スルカ如クナルヘレ是レ即チ隣
人ヲ愛スルヲ己ヲ愛スルカ如クナルヘキノ謂
ナリ
又經典ニ曰ク己ノ欲スル所之ヲ人ニ施セ是レ
天ノ定則ニシテ先哲ノ遺訓ナリト其義上ノ教
ト同レク唯其文ノ異ナルノミ故ニ之ヲ解釋ス
ルキハ即チ亦左ノ義ニシテ人若シ他人ノ權ヲ
重シスヘキノ大ナルヲ知ラント欲セハ先ソ他
人ヲシテ己ノ權ヲ重シセシムルヲ願フト如何
ナルヲ問ヘシ然ルキハ容易ニ其義ヲ知リ得ヘ

クレテ他人ノ行ニ管セス常ニ己ヲレテ先ツ此
 ノ如キ所行ヲナスヘク命スルモノナリ故ニ若
 レ他人ノ己ニ對シテ相互ノ職務ヲ破リシキハ
 彼ノ補繕ヲ為スヲ要セスレテ之ニ對シ相互ノ
 職務ヲ行フヘシ此教ニ從フキハ報復ノ念忽チ
 熄ミテ只他人ノ害ヲ行フニ任シ恒ニ正道ヲ行
 フテ之ニ示レ毫モ他人ヲレテ^任辨解ノ辞ナカラ
 ズムヘキヲ明カナリ若レ能ク此ノ如クナルキ
 ハ暴惡ノ所行ヲシテ全ク地球上ニ其跡ヲ絶タ
 レムルニ至ル可シ

上ニ論スル所ヲ見レハ此教ハ普ク人ニ適合ス
 ルヲ明カニシテ人々何様ノ^{アリ}景況ニ於テモ常ニ
 之ヲ離ルヘカラス故ニ此教ハ強弱貧富少長ヲ
 論セス總テ人ニ適合スレテ若レ己天ヨリ惠ヲ受
 クルヲ厚ケレハ其分ニ安レテ他人ヲ惠ムヲ務
 ムヘキノ理愈大ナリ其天惠ノ厚キヲ以テ之ヲ
 受クルノ少ナキ者ニ對シ其天ヨリ得タル些少
 ノ所有ヲ奪フノ理ナク且此教ハ兒童ニ雖モ亦
 成人ニ異ナラスレテ若レ童子其力ノ強キヲ恃
 ム其伴ノ玩具ヲ奪ビ或ハ己ノ年長ニレテ其智

アルニ任レ其件ヲ騙スルハ此教ニ背クナレ
 ノ家ヲ奪ヒ馬ヲ盗ムト毫モ異ナルナレ
 此教ハ獨リ各人相交ハルノ際ニ用フヘキノミ
 ニ非ラス萬國ノ交際ニ於テモ亦之ニ依從スヘ
 レ故ニ此國ノ彼國ニ對レテ其權ヲ愛重スヘキ
 ナリ亦自ラ己ノ國權ヲ愛重スルカ如クニレテ己
 ノ彼ニ施スヨリ敢テ其報ノ多キヲ求ムルナリ勿
 レ且此國ノ彼國ニ對レテ或ハ殘虐ノ行ヲ為シ
 或ハ虚誕ノ辞ヲ吐キ或ハ欺騙ノ術ヲ施ス之ヲ
 各人ノ間ニ行フニ此スルニ其非タルヤ更ニ大

ナリトスルモノハ是其人ヲ害レ人ノ心術ヲ傷
 フト甚々大ナルニ因レリ故ニ若レ此ノ如キ非
 ナ行フ片ハ其國ノ主宰人民共ニ天ノ責ヲ受ク
 ヘレ

人ハ皆天ノ造レル物ニレテ一樣ニ天ノ保護ヲ
 受クル者ナリ故ニ相互ノ職務ヲ破ルルハ常人
 ニ對レテ非ヲ行フノミニ非ラス亦天ニ對レ罪
 ノ犯セレモノナリ人其隣人ニ對レテ正道ヲ行
 フヘキハ皆彼ノ隣人タルカ故ノミニ非ラズ彼
 モ亦天ノ造リレ物ニレテ天ヨリ之ニ對レ正道

行フヘキラ命セレカ故ナリ此故ニ少年長者ノ別ナタ又各人ト萬國トヲ論セス不正ニ所行ハ何事ニ於テモ造物者ニ對レテノ職務ヲ破ルニ因リ其罪タルヤ輕カラス現世若クハ未來ニ於テ必ス天ノ罰ヲ受クヘシ

第二章

身體ノ自由及ヒ之ヲ妨ルノ方法ヲ論ス

他人ノ妨ヲ為サレハ天ノ己ニ與ヘタル樂ノ具ヲ己ノ隨意ニ用フルノ權ハ各人皆一樣ナルヲ既ニ前ニ論セレカ如クニレテ其四肢百骸性情

ハ皆天ノ與ヘレ樂ノ具ナルカ故ニ人ハ皆他人ノ隨意ニ其樂ノ具ヲ用フルノ權ヲ妨ケサレハ亦隨意ニ己ノ身体性情ヲ用フルノ權アリテ他人ノ妨ヲ為サレハ己ノ樂ノ得ヘキタス其耳目手足ヲ用ヒ又己ノ欲スル所ノモノハ之ヲ學ヒ己ノ信スル所ノ事ハ之ヲ聽カント願フ人ニ傳ヘ己ノ可ナリト思フ方ハ之ヲ用テ天ヲ拜スルノ權アリ唯之ヲ用フルニ他人ノ權ヲ妨ケサレハ自由自在ニレテ人ノ束縛ヲ受クルノ理ナ

獨り父子ノ間ノミハ此例ニ非ラス

第一 父タルモノハ子ヲ養フノ任アリテ其子ノ所作ノ善惡ハ其父代リテ其責ヲ受ク故ニ父ハ其子ノ所作ヲ制御スルノ權無ルルヘカラス又子ニ精神ノ教育及ヒ脩身ノ教育ヲ授クルハ父タル者天ニ對シテノ責ナリ故ニ父ハ其子ノ讀ムヘキ書ヲ撰ミアテ之ニ教ヘ其子ノ受クベキ教ヲ擇ミテ之ヲ授クルノ權アリ

第二 父ハ子ノ成長シテ父ノ保護ヲ仰カサルニ至ルマテハ之ヲ使役スルノ權アリ此權ハ又

之ヲ他人ニ移スヲ得即チ師ヲ求メ其子ヲレテ之ニ事ヘレムルカ如キ是ナリ但シ父ノ子ヲ使役スルハ年齢ニ因リ其定限アルカ故ニ自ラ此權ヲ用フルヲ得ヘキ時間ハ之ヲ人ニ移ステ得ルト雖モ其子ノ成人ニ至ルニ及テハ父ノ權全ク終リテ爾後其子ノ天與ノ權ハ父子ノ別ナク共ニ世間ノ衆人ト同等ノ地ニ居ルヘシ

身體自由ノ權ハ各箇ノ人之ヲ破ルアリ社中ニテ之ヲ破ルアリ左ニ其事ヲ論スヘシ

第一条

各箇ノ人身體ノ自由ヲ妨ル事

各箇ノ人他人ノ身體自由ヲ妨ルノ最モ著キモノハ賣奴是レナリ

賣奴ノ設ハ甲ヨリ乙ニ錢ヲ與フシハ丙ヲ己ノ私有品トナシテ之ヲ用フルノ權アリトス因テ丙ハ己ノ樂ヲ得ヘキ為メ己ノ四肢精神等ヲ用フルノ權ヲ只他人ノ樂ヲ達ス可キカ為メニノミ之ヲ用フルヲ得故ニ甲ハ人ノ樂ヲ奪フテ己ノ樂ヲ達スルヲ唯一人ノミニ限ラスシテ錢ヲ出スヲ多キ時ハ幾許ノ人ト雖氏之ヲ用ヒ

テ己ノ樂ヲ達ス可キノ權ヲ得ルモノナリトス賣奴ノ設ハ管ニ身體ノ自由ヲ得セシメサルノミニ非ス其性情ノ自由モ亦得セシメサルヲ明カナリ其故ハ賣奴ノ設アルキハ何事ニ於テモ其設ラシテ永續セシムルニ必要ノ事ハ欠クヘカラスレテ其性情ヲ束縛スルノ設ヲ永續セシムルニ必要ナルヲハ賣奴ノ乱ヲ作スルキヲ恐ル、キハ主人必ラス其性情ヲ束縛シ且之ヲ行フノ權アリト称セシヲ見テ推知スヘレ經典ニ曰ク汝隣人ヲ愛スルヲ己ヲ愛スルカ如

クセヨト此教ノ意味ハ上ニ解釋シタルカ如シ
 故ニ人類中ニ我隣人ニ非サル者アルニ非サレ
 ハ此教ハ斷然賣奴ヲ禁セシ者ナラサルヲ得ス
 若シ世人普ク此教ニ從フキハ縱令賣奴ノ設暫
 時其迹ヲ存スルト雖氏其實ハ瞬間モ之ヲ存ス
 可カラサルヲ明カナリ

白哲人種ヲ賣奴ト為スノ教ニ背ク一ハ人皆之
 ヲ知ル故ニバルバ^{ブル}バ^バリ^リ亞^ア諸^ゾ國^クノ諸^ゾ國^クノ總^ゾ名^クニ於
 テ嘗テ白哲人種ヲ賣奴トナセシハ人皆之ヲ教
 ニ背ケリトス蓋シ色ニ黑白ノ差アル片ハ脩身

ノ權ト脩身ノ任トヲシテ亦異ナラシムルノ理
 アリヤ

賣奴ノ設ハ此ノ如ク教ニ背キシモノナレ^レ凡^レ令
 姑ク此設アリト看做シテ人ノ相互ノ職務ニ付
 キ此ニ予カ意見ヲ述フ

他人ヲシテ盡ク天ノ與ヘクル幸福ヲ受ケシム
 ルハ是レ人ノ職務ナリ故ニ賣奴自ラ其一身ヲ
 保護スルヲ得ハ一日モ之ヲ束縛スルハ不正
 ノ所行タルヲ免レ^ス故ニ其主人直チニ之ヲ免
 シテ其自由ヲ得セシムヘシ若シ否ラサレハ之

ニ相當ノ給金ヲ與ヘ時間ヲ經ルノ後自ラ其身
ヲ贖ハシムヘシ

若シ賣奴自ラ其一身ヲ保護スルヲ能ハサレハ
其主人タル者之ヲ教育シテ其人品ヲ高クシ其
才智ヲ進メ以テ其一身ノ保護ヲ得セシムルヲ
己ノ職務トスヘシ若シ賣奴其一身ヲ保護スル
ヲ得ルニ至テハ主人ノ職務ハ前件ト異ナル
ヲナシ

又賣奴ハ何事ト雖モ天ノ誠ニ背キレトニ非ラ
サレハ從順ナルヲ其職務トスヘシ故ニ主人ノ
行ノ善不正ナルカ為メニ賣奴自ラ其力ヲ恃ミ
兇暴ノ行ヲ為スノ理ナシ蓋シ賣奴ノ此ノ如ク
為スヘキ所以ハ級令害ヲ受クルト雖モ温和堪
忍從順ナル可キト是レ人ノ所行ニヨリ應報ヲ
與フル天ノ甚々好ニスル所ナルニ因レリ

第二條

社中身體ノ自由ヲ妨クル事

社中トハ各箇ノ人相聚リ共ニ一定セシ法則ノ
支配ヲ受ク可キ者ヲ云フ故ニ一家ハ即チ父母
ノ定メタル法則ヲ以テ治ムル所ノ社中ナリ又人々

相聚リ社ヲ結ヒテ共ニ一定セシ目的ヲ達セン
 ト欲スルモノアリ即チ理學社中、仁惠社中等ノ
 如シ因テ之ヲ推言スルキハ一國モ亦一ノ社中
 ニレテ其國內各箇ノ人相聚リテ他ノ目的ヲ達
 セレニ為ノ一定シタル法則ノ下ニ立ツモノナ
 リ
 大ヨリ各人ニ樂ノ具ヲ與ヘ且ツ他人ヲ妨ケザ
 レハ自由自在ニ之ヲ用フルノ權ヲ與フルトノ
 都テ一樣ナルハ既ニ之ヲ前ニ記セリ故ニ又他
 人ヲ妨ケスレテ其樂ノ具ヲ用フル時ハ他人ノ

實ノ受クルトナク若シ他人之ノ妨クルルハ之
 ノ暴虐無道ト云フ
 各箇ノ人他人ノ身體ノ自由ヲ妨クルカ如ク社
 中ニ亦之ヲ妨クルトアリ故ニ一家擧テ一箇ノ
 人ニ敵レ共ニ之ヲ害スルトアリ亦一國ノ人共
 ニ一致シテ一人或ハ數人ヲ害スルトアリ即チ
 夫ノ人ノ樂ヲ妨クル國法ヲ立テ暴虐ノ事ヲ行
 ヲカ如キ是ナリ
 各箇ノ人相聚リテ國ヲ為スルハ人ヲ選ミテ立
 法行法ノ事ヲ司ラシム是ヲ其國ノ政府ト名ツ

ク其法ヲ立ツルノ官ヲ立法官ト云ヒ又其聚會
スルキ是ヲ公會ト名ク其法ヲ行フ者ヲ裁判
人等ト云フ故ニ暴虐ヲ行フハ其實人氏モ亦同意
セサルナキノ理ナリト雖モ暴虐ハ大抵政府ヨ
リ出ルモノナリ然レモ時トシテハ又人民々政府
ニ逆ヒ暴虐ヲ行フアリ愚民ノ一揆ヲ起シ各
箇ノ人ヲ害スルカ如キ是レナリ是ヲ暴虐無道
ノ最モ厲惡スヘキモノトス
第一 社中ニテ人ノ身体ノ自由ヲ妨クルヲ數
アリ

其一 罪無クシテ人ヲ執ヘ或ハ故無キ事ヲ疑
フテ之ヲ執フル等是ナリ
其二 人縱令罪アリト雖モ公平ノ吟味ヲ遂ケ
ズレテ之ヲ罰スル等是リ蓋シ罪ノ證據分明
ナルニ至レバテハ唯疑念アルノミ若シ疑念ヲ
以テ人ヲ罰スルヲ許スルハ恐クハ無罪ノ人有
罪ノ者ト一樣ニ罪ヲ受クヘシ是レ世間ニ正道
ノ廢タレタル所以ナリ
其三 人ノ行カント欲スル處ニ行クヲ禁シ或
ハ他人ニ害ヲキ所願ノ事ヲ行フヲ禁スルカ如

キハ人ノ自由ヲ妨クルナリ譬ヘハ人ノ他國ニ
行クヲ禁シ或ハ某ノ地ニ於テ高賣ヲ為スヲ許
サ、ル等是ナリ此ノ如クシテ人ヲ自由ヲ妨ク
ル、歐羅巴亞細亞ノ諸國ニ於テ間見ル所ナリ
第二 社中人ノ精神ノ自由ヲ妨クルコトアリ
其一 何物ニ於テモ人ノ好ム所ノモノヲ學フ
ヲ禁スルハ精神ノ自由ヲ妨クルナリ蓋シ教法
ノ書及ヒ他ノ裨益アル書ヲ學フコトヲ禁スル國
アリ
其二 人何事ニ於テモ他人ノ權ニ妨ナキ己ノ

説ヲ世ニ公ニセシト欲スルニ之ヲ禁スルハ精
神ノ自由ヲ妨クルナリ即チガリレシ以太利國
紀元一十五六カバノ天文説ヲ世ニ公ニセシト
欲セレバ之ヲ禁セシカ如キ是レナリ又教法ノ
書ヲ世間ニ流布セシムルヲ禁スルモ亦精神ノ
自由ヲ妨クルナリ
然レバ人ヲシテ不良ノ情ヲ起サシメ或ハ人ヲ
兇暴ニ誘ヒ或ハ人ノ評判ヲ害スル等ノ書ヲ出
板スル所ハ之ヲ禁シ之ヲ罰スルヲ以テ社中ノ
職務トス然レバ公平ニ吟味シテ然ル後ニ之ヲ

行フヲ得可キノ何事ニ於テモ人ハ公平ノ吟
 味ヲ受ケスシテ安リニ罰セラレ、ノ理ナシ
 第三 社中ニテ各箇人ノ教法ノ自由ヲ妨クル
 一アリ蓋シ心性ヲ研クハ一ノ樂ノ具ナルヲ以
 テ各人若シ他人ヲ害セサレハ己ノ好ム法方ヲ
 用ヒテ之ヲ研ク一自由自在ナリ社中此權ヲ破
 ル一數種アリ
 其一 他人ニ害ヲ為サ、レハ何等ノ方ヲ用ヒ
 テ天ヲ拜スルト雖モ妨テレ然ルニ之ヲ禁スル
 ハ教法ノ自由ヲ妨クルナリ

其二 如何ナル法ト雖モ天ヲ拜スルノ方ヲ定
 メ人ニ命レテ之ヲ用ヒシムルハ教法ノ自由ヲ
 妨クルナリ其故ハ斯ク其方ヲ定ムル時ハ之ヲ
 用フル人ノ意ニ天ニ對スルノ任ニ於テ相反セ
 リト思フコトアレハナリ
 其三 人此教法ヲ奉セシテ彼ノ教法ヲ奉ス
 ルヲ以テ之ヲ罰レ又ハ何等ノ權ニ於テモ之ヲ
 奪フルハ教法ノ自由ヲ妨クルナリ
 其四 教法ノ異ナルカタメ他ノ教法ヲ奉スル
 人ニ許ス可キ便利ヲ與ヘサルハ教法ノ自由

ア妨グルナリ蓋レ教法ハ全ク人ト天トノ間ノ
 事ニシテ若シ人天ニ對スル職務ナリト思フ
 ノ行フニ人ニ對スル職務ヲ破ルニ非サレハ社
 中之ヲ妨クルノ權ヲク又天ニ對スル職務ナリ
 ト思フヲ行フテ人ニ對スルノ職務ヲ破ル
 社中之ヲ禁スルハ教法ノ善惡ニ管スルニ非ラ
 ス只人ノ權ヲ破ニカ為メナリ
 一ノ教法ノミヲ許シテ他ノ教法ヲ奉クルヲ
 禁レ或ハ國法ニテ一ノ教法ヲ國教ト定メ其他
 ノ教法ノ奉スル者レハ之カ為メニ其當然ノ

權ヲ奪フカ如キハ教法ノ自由ヲ妨クルモノナ

第三章

所有ヲ論ス

第一条

所有ノ權ノ本義及ヒ之ヲ得ルノ原由
 所有ノ權トハ他人ノ妨ケヲ受ス一テ已ノ隨意
 ニ物品ヲ用フルノ權ナリ譬ヘハ馬ヲ所有スル
 者ハ已ノ隨意ニ之ヲ使用レテ已ノ便ニ供スル
 ノ權ヲ有レ非常ニ殘酷ノ所為ヲ行フニ非サレ

ハ他人之ヲ妨クルヲ得サルカ如シ然レバ亦其
 馬ヲ使用スルニ因リ隣人ノ種植シタル燕麥ノ
 食ハシムヘカラス故ニ馬ヲ所有スル者ハ己ノ
 欲スル如ク之ヲ使用スルノ權アレバ是レヲ以
 テ害ヲ隣人ニ加ヘクルヲ辨解^{ハカク}ヲ為スト能ハス
 左ニ所有ノ權ヲ得ルノ方法ヲ論ス
 其方法ニアリ即チ一ハ直^{ハカク}ニ之ヲ己ニ得一ハ他
 人ノ手ヲ經タル後之ヲ己ニ得
 第一 直ニ之ヲ己ニ得ルノ方法
 其一 天ノ賜

天ハ人ニ物ヲ欲スルノ念ヲ賦與シ且人ノ為ニ
 百物ヲ備フ故ニ人ハ之ヲ取テ禁スル者アルニ
 非サレハ取テ以テ己ノ隨意ニ用フルハ妨ケナ
 シ唯天ト人トニ對シテ己ノ行フヘキ任ニ背カ
 サルヲ要スルノミ蓋シ荒漠無用ノ地一入り野
 獸ヲ獵シ野果ヲ採リ或ハ河海ニ漁シテ魚ヲ獲
 ル等ノ權皆此道理ニ原クモノナリ
 其二 己ノ労働
 人一區ノ地ヲ所有シテ己ノ手ヲ勞レ穀物ノ一
 穂ヲ得ルカ之ヲ得ルカ為メ己ノ力ヲ役シタル

労働ハ即チ己ノ身ヨリ出テタル労働ナルカ如ク此一穗ノ穀物モ亦己ノ穀物ナリ然レ氏己ノ若シ他人ノ所有スル地ヲ耕作レテ穀物ヲ得ルハ唯雙方協同シテ定メタル一部ノミヲ己ノ所有トスルヲ得ヘシ是レ地ヲ所有スル者ハ地ノ利益トシテ其一部ヲ得耕作スル者ハ労働ノ償トシテ其一部ヲ得ルモノニシテ之ヲ俸金ノ本義トス
 第二 人ノ手ヲ経タル後之ヲ己ニ得ルノ方法
 其一 貿易

人ハ物ヲ所有スルハ他人ノ妨ヲ受ケズレテ隨意ニ之ヲ用フルノ權アリ故ニ己ニ相當ト思量スルキハ其物ノ他物ト貿易スルノ權アルヲ固ヨリ論ヲ待タスレテ隣人モ亦同一ノ權ヲ有スルカ故雙方互ニ物品ノ貿易ヲ為スヲ得ヘク既ニ斯クノ如ク貿易ヲ為スハ其貿易セシ物品ヲ己ノ所有トナレテ保ツヘキヲ當然ナリ
 其二 贈遺
 人ハ償ヲ得テ己ノ所有スル物ヲ他人ニ與ヘ他人之ヲ得テ妨ケナキカ如ク若シ己ノ意ニ適ス

ル片ハ償ヲ得スレテモ之ヲ他人ニ與フルヲ得ヘシ即チ仁惠愛情感恩ヨリ起ルモノ是ナリ此方法ニ於テモ亦人ニ所有ノ權ヲ與フ

其三 遺囑

人ハ生時其所有スル物ヲ自ラ處置スルノ權アリ故ニ之ヲ貿易シ或ハ己ノ相當ト思量スルキハ死前ニ他人ニ與フルヲ得ルカ如ク亦遺囑ヲ為レテ死後ニ之ヲ人ニ與フルヲ得ルナリ其四ノ遺產人儘遺言ヲ為サスレテ死スルコトアリ故ニ社中

其遺產ヲ處置スルノ方ハ死者ノ情願如何ノルヲ想察スルニ在テ妻子アル者ハ妻子ニ分配シ妻子ナキ者ハ其最近ノ親族ニ分配スルヲ死者ノ情願ト思定ス故ニ遺產ニ關係スル國法ハ此道理ニ原キテ定メタルモノナリ此方法モ亦人ニ所有ノ權ヲ與フ

其五 所持

人其所有ノ權ヲ得ルノ證據分明ナラスレテ物ヲ有スルト雖モ他人其之ヲ有スヘキノ確證アルニ非サレハ其權ヲ妨クヘカラス是蓋シ人ノ

證據分明ナラサルヲ以テ之ヲ奪フモ己亦確證
ナキヲ以テ忽チ他人ニ奪ハレ此ノ如クナル片
ハ一人ノ取テ利ヲ得ルヲナク其争止ム時ナキ
ニ因レリ

是ヲ概論スル片ハ所有ノ權ハ固ト天賜若クハ
己ノ勞動ニ因リ之ヲ得テ然ル後、貿易贈遺遺
囑及ヒ遺産ニ因テ之ヲ得ルモノナリ蓋シ所有
ノ權ヲ授受スル片本注ノ現ニ同意セシカ或ハ
社中其本主ノ同意セシト想定セルニ非サレハ
按スルニ遺産ノ如キモノヲ云フ脩身ノ道ニ背クモノトス又人

所有ノ權ヲ得タル確證ナレト雖氏他人之ヲ有
スヘキノ確證アルニ非サレハ唯己ノ所持スル
ヲ以テ他人ノ妨ヲ防クニ足レリトス

第二条

所有ノ權ヲ犯ス事

所有ノ權ハ既ニ上ニ論スル如ク他人ノ妨ヲ受
ケスシテ己ノ隨意ニ其物品ヲ用フルノ權ニレ
テ此權ハ己ノ專權ナル故ニ其所有物ヲ用フ
ルハ何人ヲ問ハス之ヲ妨クルノ權ナク且此權
ハ普ク人ノ所有物ニ及フモノニシテ人ハ己ノ

有ニ非サル物ノ全部ヲ奪フノ權ナキカ如ク些
 少ノ一部ト雖氏亦之ヲ奪フノ權ナレ故ニ一顯
 ノ卒兼ヲ盜ムモ一匹ノ馬ヲ盜ムモ官公所有物
 ヲ取ルモ私ノ所有物ヲ取ルモ所有ノ權ヲ犯ス
 ニ至テハ毫モ輕重ナレ
 所有ノ權ノ授受ハ之ヲ授クル者甘ンシテ受ケ
 ル者ト同意セレニ非ラサレハ真ノ授受ニ非ラ
 サルヲ亦既ニ上ニ論スルカ如ク且、縱令之ヲ授
 クル者其受クル者ト同意シテ之ヲ為スト雖氏
 若シ受ケル者不正ノ方法ヲ以テ授クル者ノ心

ヲ動カシ其權ヲ得ルカ如キハ互相ノ同意ヲ以
 テ之ヲ得タルト為スヘカラス譬ヘハ死ヲ以テ
 入ヲ脅カシ其錢ヲ要ムハ凡人必ス死ヲ恐レテ
 錢ヲ與フルヲ肯ンスルト雖氏其授受ノ方ニ於
 テハ其正レキヲ以テシタルト為レガタキカ如
 ク又虚言ヲ吐キ授クル者ノ心ヲ惑ハレ同意セ
 レムルカ如キモ亦同一ニレテ蓋レ一ハ盜賊一
 ハ詭騙ナリ故ニ總テ所有ノ權ノ授受ニ於テ之
 ヲ受クル者不善ノ所行ヲ為レ授クル者ヲレテ
 同意セレムルヲ得タルルハ脩身ノ道ニ背クモ

ノトス

上ニ論スル所ニ因リ左ノ諸件ノ如キハ所有ノ
權ヲ犯スモノトス

第一 本主ニ告スレテ其所有物ヲ取ルキハ即
チ竊盜ナリ縱令本主之ニ掛念セス或ハ覺寤セ
ス或ハ違拒セサルヘレト雖ハ其所行ニ於テハ
毫モ盜賊ト異ナルトナク唯本主ノ同意セシヤ
否ヲ問フニ過キスレテ若レ同意セサリレバハ
其所作即チ竊盜タルノ免レス

第二 カヲ以テ他人ヲ同意セシメ以テ其所有

物ヲ奪フ即チ強盜ナリ

蓋レ強盜ハ先ツ人ヲ生殺スルノ權ヲ持シテ然
ル後ニ人ヲシテ死ニ就クカ將々其所有物ヲ與
ヘテ生ヲ求ムルカノニテ擇マシム是レ人ノ權
ヲ犯スト最モ甚タシク且常ニ人ノ生命ヲ危ク
ス故ニ嚴ニ之ヲ罰シテ死罪ニ處スル國多シ
第三 人ヲ欺キ其同意ヲ得ル

此類二種アリ

其一 物ヲ受ケテ償ヲ與ヘサルキ譬ヘハ乞兒
ノ靈言ヲ吐キ錢ヲ乞フカ如キ是ナリ

其二 與フル所ノ償ニ於テ名實符合セサルハ
此第二項ハ所有ノ權ノ犯スル最モ多キ方法ニ
シテ且他ノ方法ノ是ヨリ出ルモノ夥シキカ故
詳ニ之ヲ論ス

此論分チテ三条トス

第一 償有形ノ物ニシテ授受永久ナルハ

第二 償有形ノ物ニシテ授受一時ナルハ

第三 償無形ノ物ナルハ

第三条

償有形ノ物ニシテ授受永久ナルハノ所

有ノ定則即チ賣主買主ノ定則

賣主買主ノ定則ハ互ニ其相管スル地位ヲ以テ
考フルハ詳カニ之ヲ知ルヲ得ヘシ蓋シ人一斤
ノ茶若クハ一尺ノ布ヲ己ノ用ニ供スルヲ欲ス
ト雖尺一斤ノ茶ヲ求ムヘキ為メ支那ニ赴キ一
尺ノ布ヲ買フヘキ為メ製造所ニ行クヲ得ス
故ニ人ヲシテ己ノ為メ常ニ此等ノ物品ヲ備ヘ
シメ己ノ需用ヒレト欲スルハ錢ヲ出シテ其欲
スル分量ニ隨ヒ之ヲ買ヒ用フルヲ以テ便利ヲ
得因テ商人ハ亦其便利ニ供セント欲シ其熟練

ニ因リ物品ノ美惡真偽ヲ知察シ且時間ノ用ヒ
 貨財ヲ出シテ之ヲ買ヒ常ニ藏シテ以テ賣與セ
 ンコトヲ欲ス是レ雙方互相ノ利益ニレテ商人ハ
 其練熟才能ヲ盡レテ客ノ利益ヲ謀リ買主ハ商
 人ノ用フル所ノ時間練熟諸費ニ充ツヘキ相當
 ノ償ヲ與フルヲ其職務トス
 第一 商人ハ世間通常賣ル所ノ物品ト已ノ同
 等ノ物品ヲ同價ヲ以テ賣リ與フヘレ蓋レ商人
 ハ物品ノ買入ノナフニ其練熟ヲ以テ利益ヲ得
 ルモノナリ故ニ其練熟セサルハ已ノ過ナルノ

以テ自ラ其損失ヲ受クヘシ
 商人若シ詐欺ヲ受ケ粗惡ノ物品ヲ買レキハ已
 良好ノ物品ト同價ヲ出レ買入タル故ヲ以テ之
 ヲ市價ニ賣ラントハルノ權ナレ故ニ若シ極メ
 テ賤價ヲ以テ物品ヲ買入レキハ已ノ練熟ニ因
 ルカ故其利ヲ受クヘレ蓋レ已物品ヲ買入ル
 ニ若シ練熟セサルキハ其出レタル價ヲ論セス
 物品ノ實價ヲ以テ之ヲ賣リ其損失ヲ受クヘレ
 上ニ論スル所ノ如シト雖モ買主若シ自ラ危險
 ノ冒シ物品ヲ買フキハ此規則ノ外ニレテ譬ハ

ハ糶賣ニテ馬ヲ買フニ賣主敢テ隻言ヲ發セサ
 ル時ノ如キ是レナリ蓋レ此時ハ買主ノ自ラ檢
 査決斷シテ其價ヲ命スルモノトス
 第二 商人ノ市價ニテ物品ヲ賣ルハ其職務タ
 ルノミニ非ラス又其自由ニ因ルモノナリ蓋レ
 市價ニテ賣ルノ職務ナルハ常ニ商人ノ買主ニ
 説クニ已_レノ賣ル物品ノ市價タルヲ信セレメン
 トカ_ルルヲ見テ了知スハク又市價ニテ賣ルノ
 自由ヲ有スルハ其藏スル所ノ物品若レ價ノ減
 スルハ他ノ商人ト同價ヲ以テ賣ラサルヲ得ス

レテ若レ否_クサレハ一人敢テ買フ者ナキヲ見
 テ之ヲ知ルヘ_レ斯ク價ノ減スルハ賣主其損失
 ヲ受ケサルヲ得サレニ因リ若レ價ノ増スルハ
 隨テ其價ヲ貴クスルモ亦妨ナレ即チ一桶ノ麵
 粉ヲ五_」ドルラ_レルノ價ヲ以テ買ヒ其價減_レテ四
 ドルラ_レルニ下ルハ之ヲ四_」ドルラ_レルニ賣ラサ
 ルヲ得ス又其價增_レテ七_」ドルラ_レルニ上ルハ
 其買入タル價ヲ論セス之ヲ七_」ドルラ_レルニ賣テ
 可ナリ

第三 上ニ論スル所ノ如レト雖_レ賣主物品ノ

實價ノ外別ニ方便ヲ用ヒ買主ノ心ヲ動カスノ權ナレ

賣主ハ買主ノ畏懼希望若クハ其貪欲ニ憑藉スルノ權ナク又詐テ物品ノ增多若クハ價之ノ風評ヲ流布セシメ或ハ之ヲ權買シテ匱乏^{多ク}之ナラシメ或ハ買主ノ幼弱又ハ事故ニ練熟セス或ハ其誘大ヲ好ムノ心ニ於テ鼓舞シテ多ク買入レノ或ハ高價ニ賣與へ或ハ常ニ良賣手ト稱スル者ノ用ラル手段ヲ行フノ權ナシ

第四 上ニ論スル所ハ之ヲ買主ニ施スモ亦毫

厘ノ差異ナク賣主買主ハ互ニ其任トスル所同一ニシテ相對スルモノナリ故ニ買主ハ賣主ニ其用ヒタル勞動時間ト其費用ノ利息ト其危険トニ相當ルヘキ價ヲ與ヘサルヘカラス又虚誕ノ報告ヲ為シ若クハ己ノ買入ルヘキ物品ノ價ヲ賤ウセンカ為メ詭計ヲ用ヒテ賣主ノ心ヲ動カスヘカラス世上買主賣主ニ對シテ曰ク此物一文錢ニ當ラス此物一文錢ニ當ラスト而シテ其物ヲ買ヒ其處ヲ去レハ人ニ對シテ却テ其價ノ廉ナルニ誇ル嗟何ノ其鄙劣ナルヤ

上ニ論スル所ニ循ノルハ人或ハ其妻子ヲ給養
 スルヲ能ハスト謂テ之ヲ難スル者アレバ無給
 ノ論ト謂フヘシ夫レノハ不正ノ所行ヲ為シテ
 天ノ教ニ背クヨリ寧ろ貧賤ニシテ其身ヲ潔クス
 ルノ勝レルニ如カスレテ賣主買主此規則ニ從
 ヒ事ヲ為スキハ其就成スル所互ニ相欺騙セン
 ト欲スルヨリ大ニ勝ルモノアルヘシ蓋シ人ノ
 己ノ欺騙セント欲スルハ敢テ相共ニ賣買セサル
 ハ其理アリト雖モ己亦之ヲ欺騙セント欲スル
 ハ甚々理ニ於テ相反セリトス

第五 賣主買主互ニ授受スヘク言ヲ發セシキ
 ハ其賣買ノ契約既ニ決セシモノニシテ然ル後
 ハ縱令物品未買主ノ手ニ入ラスト雖モ損失ノ
 害ト利益ノ幸トハ全ク買主ニ屬セリトス故ニ
 契約既ニ決定シテ物品未^テ交付セサル中若シ其
 物毀損スルキハ即チ買主其損失ヲ擔當スヘシ
 然モ若シ契約ニ於テ其交付モ亦賣主ノ任ニ定
 マルキハ此例ニ非ラサルカ故現ニ交付ヲ為ス
 ニ至ルマテ其損失ヲ總テ賣主擔當スヘシ故ニ
 人若シ馬頭^{ハトガ}ニ於テ一車ノ石炭ヲ買ヒ馬頭潮水

ノ為メ洗去セラレテ其石炭ヲ失フハ買主ノ
損失ニシテ若レ一車ノ石炭ヲ買ヒ之ヲ己ノ家
ニ送致スヘキ價ヲ償ヒ其車途中ニ於テ覆リ石
炭ヲ失フハ賣主ノ損失ナリ

第六 賣主所有ノ物品其價自然ニ騰貴シテ買
主之ヲ知ルハ必ス其賣主ニ告知スヘシ若シ
告知セスレテ之ヲ買フハ是欺騙ナリ夫レ人
ノ所有スル物品其所有ノ時間ニ其價ノ増加ス
ルハ其利益ノ其人ニ屬スルヲ猶物品ノ其人
ニ屬スルカ如シ蓋シ人固ト其物品ヲ奪フノ權

ナレ豈其利益ヲ奪フノ權アラシヤ
人賣買ヲ為ス時此等ノ教ヲ顧ミサルト少ナカ
ラス恐ルヘキノ甚レキナリ蓋シ人名實相合サ
ル物品ヲ賣ルハ即チ此等ノ教ニ背クモノニシ
テ譬ヘハ葡萄酒ニ他物ヲ混シ之ヲ稀薄ニナシ
或ハ通常ノ量ヲ減シテ人ニ賣與スルカ如キ是
ナリ又假ヲ以テ真ニ易ヘ以テ人ニ賣與スルモ
亦此教ニ背クモノニシテ譬ヘハ綿麻混合ノ物
ヲ以テ麻布ナリト言做スカ如キ是ナリ然ルニ
不善一雖此廣ク世上ニ行ハル、事ハ恰モ善事

タルカ如ク此等ノ所行ノ世間一般ノ常態ニシテ特ニ一人ノ行フ所ニ非ラサルカ故ニ人皆以テ其非ヲ飾ルノ辞ト為スヲ欲スレバ實ハ不通ノ論ト謂フヘキナリ夫天ノ定則ニ曰ク汝貪ル勿レト故ニ縱令何レノ人此教ニ背キ幾多ノ人此教ニ従ハスト雖凡天ハ毫モ相管セス只人ノ行フ所ニ因リ以テ之ヲ賞罰スヘシ

第四條

一時ノ授受即チ借貸カガカシノ人常ニ時ヲ期シ他人ノ所有物ヲ借用ヒント欲

スルヲアリ然ル片ハ之カ為メニ相當ノ價ヲ償ハサルハカラヌ蓋シ其借用フル所ノモノ金錢ナルキハ其價ヲ息銀ト云ヒ他ノ物品ナル片ハ之ヲ借賃ト云フ

此價ノ多寡ヲ決定スルニハ左ノ原由ニ原クモノナリ第一使用第二危険

第一 使用 所有物ニ其用ヲ為スノ大ナルモノアリ又小ナルモノアリ即チ利ヲ生スル多寡ノ謂ニシテ甲乙二箇ノ田ニ就キ之ヲ言ハハ甲ハ乙アリ穀ヲ産スルヲ多キ類ノ如ク又一物ニ

於テモ亦時ニ隨ヒ其價ノ増減スルコトアリ譬ハ
ハ田ヲ借ルヲ欲スル者多キハ無用ノ田多ク
レテ借人少キノハ比スレハ其借賃ノ貴キコト
當然タルカ如ク

第二 危險 本主其所有物ヲ貸與スルニ危險
ノ大ナルアリ又小ナルアリ即チ田ヲ貸スノ危
險ハ船ヲ貸スノ危險ヨリモ小ニレテ家ヲ貸ス
ノ危險ハ馬ヲ貸スノ危險ヨリモ小ナリ故ニ此
危險ノ大小ニ因リ其償ニ多寡ノ異ナルハ當然
ノ理ニレテ借賃ノ多寡ハ常ニ使用ト危險トヲ

算レ以テ之ヲ定ム

借賃ニ二種アリ第一ハ金錢ノ借賃第二ハ他ノ
所有物ノ借賃ナリ

金錢ノ借賃

第一 債主ハ資本ノ使用ト其危險トノ償ヲ得
ルニ相當ハ則チ踰ユヘカラス

第二 債主ハ不正ノ方ヲ用ヒ借主ノ心ヲ動ス
ヘカラス其理ハ即チ賣買ト相異ナルコトナレ

第三 借主ハ上ニ言ハル如キ相當ノ價ヲ償フ
ハク且不正ノ法方ヲ用ヒ借主ノ心ヲ動スヘカ

ラサルハ猶債主ノ借主ニ於ルカゴトニ
 第四 所有物ノ危険ハ本主ノ償ヲ得ヘキ所以
 ノ其一ナルカ故借主債主ノ所有物ヲシテ契約
 外ノ危険ヲ受ケシムヘカラス
 故ニ借主ハ其借タル金銭ヲ契約外ノ危険ナル
 商業ニ使用シ或ハ之ヲ詭遇ノ方ニ使用スルノ
 權ナレ若シ此等ノ事ニ使用スルキハ是レ其償
 ノ出サスレテ人ノ所有物ヲ用フルヲリ又借主
 ハ其損失ヲ避ノルニ留意スルヲ猶己ノ所有物
 ノコトクシテ且己ノ練熟シタル方法ヲ盡シ能

ク之ヲ覆置シテ其就成ヲ期スル猶己ノ所有物
 ト異ナルナキガコトクスルヲ其任トス
 第五 借主ハ契約上ニ記シタル条件ニ毫モ差
 異ナク其償ヲ交還シテ約束ノ總額ヲ償ヒ約束
 ノ期日ヲ違ヘサルヲ要ス縱令其一ヲ缺クモ亦
 契約ヲ破ルモノナリ
 借主家資分散ヲ為ス片ハ脩身ノ道ニ於テ其責
 ヲ免ル、ヤ否是常ニ人ノ疑ヲ容ル、所ナリ令
 余ノ見ヲ以テ之ヲ論スレハ借主後ニ之ヲ償メ
 ノカヲ得レハ其責ヲ免レス人或ハ言ノ此ノ如

キハハ借主殊ニ其嚴酷ニ堪ヘ難レト余試キ
問フ若シ之ニ反スルキハ亦是レ債主ノ堪ヘ難
キ所ニ非スヤ且夫一人ノ權ハ他人ノ權ノ如ク
貴重ナラサルヤ一人ノ權ハ他人ノ權ト同等ノ
權ニアラサルヤ

他ノ所有物ノ借貸

此ニ論スル所ノ理ハ前ニ記載シタル所ト其理
殆レト相同レ

第一 貸主ハ借主ノ用ニ適スル物品ヲ貸與ス
ルヲ其任トス故ニ其貸與スル所ノ物其實僞欠

スル時テハ必ス之ヲ告知スハ假令ハ令馬
ヲ貸スニ日ニ四十里外ノ路程ヲ行カシム欲ス
ル人ニ其馬ノ三十里ヨリ遠行スヘカラサルヲ
知り之ヲ貸スハ詭騙ナリ又家屋ヲ貸スニ其近傍
ニ不潔ノ地アリ或ハ烟突ノ烟ニ因リ其家屋ノ
半ハ住居レ難キヲ知り之ヲ告スレテ人ニ貸ス
モ亦詭騙ナリ夫レ所有物ノ價ヲ欠クハ己ノ損
失ナリ然レニ之ヲ人ニ移シ人ヲレテ其損失ヲ
受ケシムルノ理アラシヤ

第二 貸主ハ價ノ減スル時其損込ノ受クルニ

等々使用ト危険ト供給ノ多少トニ因リ市價ノ増減ハ亦從テ貸賃ヲ増スノ權アリ是前記ニタル所ノ理ト同一ノ理ニ原ノモノナリ

第三 借主ハ其借受ケタル所有物ニ留意スヘキヲ猶己ノ所有物ニ等ウシ之ヲシテ契約條中ニ記載シ或ハ包含シタル危険ノ外他ノ危険ヲ受ケシムルコトナク且上ニ記シタル理ニ據キ其價ヲ償フヲ己ノ任トスヘシ又借主及借主ハ通常ノ貸借外ノ方法ヲ用ヒ對手ノ心ヲ動カスノ權ナシ

第四 借主ハ其借受ケタル所有物ヲ約定ニ從ヒ毫厘ノ差異トク交還スヘシ即チ其方ハ預メ限定シタル期日ニ之ヲ交還スヘキト通常ノ損耗ヲ除クノ外其借受ケタル時ノ形状ニ從ヒ之ヲ交還スヘキトノ二事ニシテ若シ人一年ノ間家屋ヲ借り其牆壁ヲ損壞シテ貸主借賃ノ半ヲ費スニ非サレハ修理シテ更ニ人ニ貸與シ難キニ至ラシムル是レ詭騙ノ甚クシキモノナリ即チ其道ニ背クヤ恰モ借賃ノ總額ヲ償ヒ然ル後復タ本主ノ囊裏ニ就キ其半ヲ倫ハカ如シ

茲ニ緊要ノ疑團アリ借主ノ借リ用フル中若シ
損失ノ生スルキハ其損失孰レノ人カ之ヲ受ク
ヘキヤ予ノ見ル所ニ於テハ左ニ論スルカ如シ
第一 借受ケタル所有物ヲ用フルニ借主契約
上ニ記シタル方法ヲ守リ損失ノ生シタルキハ
貸主其損失ヲ受クヘシ是レ貸主ハ預メ其危険
ヲ算定シテ其償ヲ受ケシモノト看做スヘキヲ
以テナリ
第二 若レ契約外ノ方法ヲ以テ之ヲ用ヒタル
ニ因リ損失ノ生シタルキハ借主其損失ヲ受ク

ヘレ故ニ馬ヲ借リ丁寧ニ之ヲ使用シテ契約上
ニ記シタル用ニ供シ其時間ニ馬ノ死スルキハ
是レ貸主ノ損失ニシテ若シ駕御其心ヲ用ヒス
以テ馬ノ死スルキハ是借主ノ損失ナリ因テ貸
主ハ良馬ヲ貸シ借主ハ缺ク駕御スルヲ其任ト
ス
第三 借受ケタル物ニ意外ノ利益ヲ生シタル
キモ亦同一ノ理ニシテ其利益契約中ニ記シタ
ルモノナレハ借主之ヲ受クヘク否ラサレハ敢
テ之ノ得ルノ理ナシ蓋シ人ノ田ヲ借リ耕作ヲ

ナスニ穀物ノ價騰貴^シ或ハ耕作ノ練熟セシニ
 因テ其利益ヲ得ルキハ別ニ借賃ヲ加ヘスレテ
 之ヲ取テ可ナリト雖^モ氏若シ其土地中ニ於テ石
 炭坑ヲ檢出セシ類ノ如キハ元來石炭ヲ得ヘキ
 為ノ其土地ヲ借リシニ非ラサルカ故之ヲ振テ
 其利ヲ得ルノ權ナシ

危險保管

人ノ所有ハ常ニ風雨水火ノ為ヌ損失ヲ受クル
 ノ恐アリ之ヲ危險ト云ヒ他人之力為ヌ^ル保管ヲ
 為スハ多少ノ償ヲ得テ本主ニ代リ其危險ヲ受

ケント約スルモノナリ譬ヘハ我家火災ノ恐ア
 ルヲ以テ隣人ト約ヲ結ビ毎歲二十圓ラルヲ
 與フレハ己ノ家火災ニ罹リシハ隣人其損失ヲ
 償ノヘク又一艘ノ船ヲ支那若クハ他處ニ運致
 セント欲スルハ^シ保管人ニ多少ノ金ヲ給スレハ
 其破船セシキ保管人其價ヲ償フヘキノ約ヲ為
 ス之ヲ危險保管ト云フ蓋シ此保管ハ衆人相聚
 リ社ヲ結テ之ヲ為スハ危險保管社中ト名ケ一
 人ニテ保管ヲ為スハ之ヲ保管人ト云フ
 此規則ハ甚タ簡明ノモノニシテ蓋シ保管ヲ乞

フ者ハ危険ノ價額ニ管スル條件ヲ毫モ掩匿セ
 ス仔細ニ其保管ヲ為ス者ニ告知シテ其知識ノ
 及フ所ハ保管ヲ乞フヘキ物品ニ己ノ言説スル
 所ト一點ノ齟齬スルナキヲ要スヘク且其物品
 ノレテ保管人ニ告知シタル危険ノ外更ニ他ノ
 危険ヲ受ケレムヘカラス若レ他ノ危険ヲ受ケ
 シムレハ是其契約ノ外ニシテ保管其用ヲ為ス
 トナシ故ニ縱令損失ヲ生スルト雖モ保管ヲ為
 ス者敢テ之ヲ償フヲ肯セセスミテ若レ安全ナ
 ルオハ其保管金ヲ返スヘシ然レモ預メ契約シ

タルカ如クニシテ損失ノ生レタルハ保管人
 其契約ニ從ヒ正シク之ヲ償フヘシ
 保管ノ價額ハ今此ニ論スルモ亦無用ニ属シ唯
 其多寡ハ危険ノ大小ニ因リ自ラ一樣ナラムニ
 テ且各種ノ條件アリ保管人及ヒ保管ヲ乞フ者
 宜シク相與ニ商議シテ之ヲ定ムヘシ

第五條

無形ノ償ニテ貿易スル事

此條ニ説ク所ハ主僕ノ間ヲ論スルモノナリ
 人常ニ他人ノ力ヲ借テ己ノ用ニ供セシト要ス

ハコトアリ其類一ナラス或ハ家事ヲ行フニ他人ノ助ヲ要シ或ハ職業ヲ為スニ他人ノ助ヲ要ス然ルキハ相當ノ償ヲ出シ以テ其助ヲ借ルヲ需メ其需ニ應スル者アリテ互ニ契約ヲ定ムルハ即チ一人ノ勞動ト一人ノ金錢トノ貿易ナリ蓋シ此兩者ノ中孰レノ人ヲ問ハス其對手ニ相當ラサル償ヲ要シ若シクハ償ノ額既ニ定マリシ後其約束ニ背クハ不正ノ所行タリ第一主人ハ其僕ノ勞動ニ易ヘテ相當ノ償ヲ與ヘサルヘカラス然レモ其償ノ額ハ時ニ隨ヒ

屢變化レテ多寡一様ナラサルノ患アリ故ニ兩者ハ互ニ契約ヲ為シ以テ預メ之ヲ定ムルヲ其常トシ且此貿易ニ於テモ亦他ノ貿易ニ於ルカ如ク兩者互ニ其對手ノ希望畏懼ノ念ニ無レ或ハ道ニ背キタル方法ヲ用ヒ其心ヲ動カシテ此貿易ヲ為スヘカラス主人ハ其僕ニ與ヘント約レタル償ノ多寡ヲ差ヘス期日ヲ誤ラス其償ノ與フヘシ貧窮ニシテ力役ヲナス者ノ俸給ヲ遲延スルハ不正之ヨリ甚レキハナレ蓋シ貧窮ニシテ力役ヲナス者ノ

如キハ國法ニ憑藉シ若クハ衆議ヲ沸騰セシメ
以テ其憤ヲ得ルノ力ナキカ故ナリ
經典ニ曰ク汝ノ田ヲ刈リタル傭丁ヲ欺キ其傭
銀ヲ與ヘサレハ傭銀叫シテ其聲天ニ聞ユト
主人ハ其僕ニ契約中ニ包含セレ勞動ヨリ多ク
ノ勤勞ヲ要スヘカラス且其身體ノ健康ト心神
ノ脩養トヲ重ンレテ之ヲ害スルヲ勿レ人類ヲ
使役シテ其堪ヘ難キノ甚タシキニ至ラレメ或
ハ精神ヲ研キ教法ヲ學フノ暇ナカラレタルハ
大惡ノ所行ナリ然レバ兩者互ニ同心シテ其約

束ヲ結ヒレキハ帝ニ主人ノ貪欲ニ因ルノミナ
ラス亦其僕タル者ノ貪欲ヨリ起ルモノ儘少ト
カラサルカ故相與ニ其咎ヲ分ツヘシ
第二 僕タル者ノ務ハ帝ニ約束ニ背カサルノ
ミナラス且其約束ノ旨趣ニ從ヒ勞動ヲ為スヘ
シ故ニ僕若シ主人ノ為メ用フヘキノ約ヲ為シ
タル其時間ヲ懶惰若クハ無用ノ談話ニ費ヤレ
或ハ何事ヲ問ハス其職務ニ非ラサル事ニ之ヲ
用フルキハ其不正ノ罪偷盜ヲ行フト異ナルト
ナシ蓋シ僕ノ勞動ヲ為サスレテ錢ヲ受クルハ

主人ノ僕ニ與フヘキ錢ヲ償ハサルト同一ノ詭騙ナリ

主人ハ啻ニ僕ノ身體ヲ用フルノミニ非ス亦其精神智識ヲ用フルモノナリ故ニ僕タルモノハ常ニ敬慎シテ主人ノ利益ヲ謀ルヘク若シ其敬慎セサルニ因リ主人ノ所有物ニ損失ヲ生スルヤハ是レ契約ヲ破ルモノニシテ僕タル者其損失ヲ受クヘシ
上ニ説ク所ハ唯主僕ノ契約ヲ守ルヘキ公道ヲ論セシノミト雖モ經典ニ載スル所ノ仁惠ノ旨

趣ヲ考フレハ主僕ノ間ハ此公道ヲ守ルノ外猶其職務フルヲ知ル蓋シ主トナリ僕トナル者ハ相與ニ親切ヲ盡クレテ好意ヲ表スヘキ際會ノ地ニ處ルモノト互ニ思量スヘシ是即チ經典ノ旨趣ニシテ主人ハ唯其約束ノ条ニ背カス僕ヲ使用スルノミナラス己ノカヲ盡シテ僕ノ幸福ヲ謀リ僕ハ亦主人ノ委託シタル事ヲ重シ之ヲ敬慎スルヲ言語ヲ以テ悉スヘカラサルカ如ク注意ヲ加フヘシ此ノ如クナルヤハ主僕相甘ニテ互ニ其好意ヲ盡クシ兩者之ヲ為シ其品性ヲ

高クレ大ニ其幸福ヲ増スヘシ
 我合衆國ニ於テ漫ニ主僕ノ名ヲ惡ムハ甚ク謂
 ナレト云フヘシ夫レ世上何人ヲ問ハス錢ヲ出
 シテ他人ノ勞動ヲ買フ者ハ是即チ主人ニシテ
 其勞動ヲ賣ル者ハ即チ僕ナリ故ニ人或ハ主人
 タルコトアリ或ハ僕タルコトアリ譬ヘハ甲乙ニ錢
 ヲ與ヘ一對ノ履ヲ造ラシムレハ乙ハ甲ノ僕ニ
 シテ若レ乙甲ニ錢ヲ與ヘ其子ヲ教ヘシムルハ
 甲ハ乙ノ僕ナリ故ニ主僕ノ名ハ固ヨリ厭惡
 スヘキノ理ナクシテ主人トナルモ榮トスルニ

足ラス僕トナルモ辱トスルニ足ラス唯能ク其
 職務ヲ行フヲ以テ榮トシ其職務ヲ怠ルノ以テ
 辱トスヘシ

第四章

品性ヲ論ス

人若シ他人ノ品性如何ント問フ者アルハ別
 チ己ノ説ヲ述ヘテ其精神此ノ如ク其才能此ノ
 如ク其器量此ノ如ク信スル所ノ道ハ此ノ如ク
 習慣ハ此ノ如シト現今見ル所ノ瑕疵ヲ以テ之
 ニ答フ之ヲ其人ノ品性ト名ツク

品性ノ善良ナルハ人ノ所有中ニ於テ最モ貴重
スヘキモノトスルコトハ固ヨリ論ヲ待タズ總テ現
世ノ樂ハ皆品性ヨリ出テ未來ニ於テ樂ヲ得ル
ノ望モ亦品性ニ由ルノミ
故ニ道理ヲ推シノ之ヲ考フルルハ人ノ他人ニ
施ス益ノ最モ大イナルハ其品性ヲ改ムルニ在
テ害ノ最モ大イナルハ其品性ヲ損フニ在ル
明カナリ
人間相互ノ職務ノ定例ニ由ルキハ人何等ノ口
實アリテ何様ノ方法ヲ用フルモ他人ノ品性ヲ

損フヘカラス

他人ヲ損ヒ壞ルヲ警ムルハ經典中ニ於テ人ヲ
警ムルノ最モ嚴肅ナルモノナリ曰ク何人ニテ
モ是等ノ至小ノ誠ト雖モ之ヲ破リ又他人ヲ教
ヘテ之ヲ破ラレムル者ハ天上ニ於テ小人ト稱
セララルヘシ又古書ニ「ゼルボト」ト云ヘル人ノ
兇惡ナリト記セルハ其「レ」ト云ル人ヲレテ天
ノ誠ヲ破ラレメシ故ナリ又天怒リテ發レテ「レ」
ト云ル人ヲ罰セルハ其惡事ヲ以テ世人損ヒ壞
リレニ因ル其後「レ」ト云ル宗徒ヨリ詛セレハ

其徒一箇ノ人ヲシテ改宗セレメニタメ海陸ヲ
周行シ按スルニ勞苦ノ甚タレキヲ云フ其人改宗スル所ハ之ヲ
レテ已ニ倍スル罪人トナラレムルカ為メナリシ
人他人ノ品性ヲ損フ其方數種アリ
第一 心ノ抑制ヲ弱クスル事夫レ教法ハ人ノ
不善ヲ抑制スルノ最モ大イナルモノナリ故ニ
輕卒ニ教法ヲ談レ神ヲ汚レ日曜日ヲ犯レ經典
若クハ其説ヲ非議レ或ハ人ニ父母ニ不孝ヲ勸
メテ信心ノ念ヲ減スルハ此罪ヲ犯スモノナリ
第二 人ヲシテ不良ノ情ヲ起サレムル事即チ

不良ノ書畫ヲ出板レ或ハ之ヲ賣リ或ハ不良ノ
事ヲ談レテ人ニ不良ノ思念ヲ懷カレムルハ此
罪ヲ犯スモノナリ人ヲ戲弄シテ其怒ヲ起レ毒
惡報復ノ念ヲ懷カレムルモ亦然リ其故ハ此ノ
如キ事ハ人ヲミテ兇惡不善ニ陷ラレムルモノ
ナレハナリ
第三 人ノ不良ノ慾ヲ助クル事即チ人ニ飲酒
ヲ教ヘ或ハ之ヲ飲酒ニ誘ヒ或ハ酒ヲ其眼前ニ
置ク者ハ此罪ヲ犯スナリ大都府ノ街上ニ於テ
ハ少年ノ慾ヲ飽カシメ終ニ放蕩無賴ニ至ルノ

習慣ヲ醸レテ其生計トスル者多ク實ニ歎スヘキノコトナリ

此ノ如キ所ハ言行書畫職業ノ別ナク人ノ品性ヲ損フノ勢アルモノハ總テ無罪ノモノニ非ラス人常ニ之ヲ忘ル、勿レ

第五章

評判ヲ論ス

前章品性ノ事ヲ論セリ人何様ノ品性ニテ之カ為メ世間一般ノ説ヲ生スルハ自然ノ勢ナリ譬バハ常ニ虚誕ヲ吐カサルハ其言ヲ所必ラス

實事ナルヘレトノ説ヲ生スヘレ即チ是真實ノ評判ヲ得ルナリ若レ平生正直ナレハ之ニ應レテ世間ノ説ヲ生ス即チ正直ノ評判ヲ得ハニ他ノ事件皆然ラサルナシ人ノ聲價ハ甚ク重スヘキ所有ニシテ各人幸福ノ望ハ其評判ニ由ルモノナリ若シ人虚誕偷盜ノ評判ヲ得ルルハ誰カ之ニ事ヲ任スル者アラハ故ニ他人ノ評判ヲ貶スル事ハ最モ大イナル不正ニレテ補フヘカラサルノ害ナリ人他人ノ聲價ノ奪フノ權ナキト猶其金錢ヲ奪フノ權ナ

キカ如クニシテ縱令其嚴價實ニ過ルト雖此之
 ヲ奪フノ權アルヘカラス譬ヘハ人アリ不正ノ
 術ニテ錢ヲ得ルト雖此國法ニテ之ヲ裁スルノ
 權ヲ有ツ者ニ非ラサレハ其錢ヲ奪ヒ若クハ何
 等ノ方法ニテモ妨ヲ為スノ權ナキカ如シ故ニ
 縱令ヒ人ノ評判其實ニ過ルト雖此故ナクニテ
 其評判ヲ減スルノ權ナレ
 此事ニ付テ經典ニ記スル所ノ教ハ左ノ如シ曰
 ク汝人ノ為メニ議セラシテサラント欲セハ人ヲ
 議スル勿レ其故ハ汝何等ノ度ヲ以テ人ヲ度ル

此人亦其度ヲ以テ汝ヲ度ルヘシ汝何ソ人ノ眼
 中ノ小點ヲ見テ己ノ眼中ノ大瑕ヲ顧ミサル按
ルニ人ノ小過ヲ知リテ己
ノ大過ヲ知ラサルヲ云フ
 曰ク總テ罵詈訕怒喧嘩誹謗ノレテ汝ノ傍ヲ去
 ラシメヨ
 曰ク何人ヲモ誹謗スル勿レ又曰ク互ニ相誹謗
 スル勿レ
 曰ク生ヲ愛シ幸福ヲ邀ヘント欲スル者ハ其舌
 ヲシテ人ヲ誹謗セシムル勿レ
 左ニ先ツ人ノ害トナル實事ヲ談スヘカラスル

ノ事件ヲ論シ次ニ之ヲ談スルモ妨ナキノ事件
ヲ論フヘシ但シ人ノ害トナル虚誕ハ此例ニ非
ラス此ノ如キモノハ啻ニ虚言ノ罪アルノミナ
ラス加フルニ讒言ノ罪アレハナリ
第一 相當ノ緣由ナクレテ人ノ惡事ヲ顯ハス
ヘカラス新奇ヲ喜ビ或ハ談話ヲ好ミ或ハ猜忌
或ハ惡意或ハ報復ノ為メニ他人ノ惡事ヲ談ス
ルハ相當ノ緣由ナクレテ之ヲ行フモノトス
第二 人ノ一ノ惡事ヲ行ヒレテ以テ其品性總
テ此ノ如シト謂フヘカラス誰カ一事ニ依テ其

全行ヲ決ヒラル、ヲ願フ者アラシヤ一ノ容
ノ所行ヲ以テ其貪婪ノ證據トナシ難キヲ猶一
ノ慈悲ノ所行ヲ以テ其仁惠ノ證據トナシ難キ
カ如シ故ニ一ノ短處アルヲ以テ全ク不徳ノ人
ナリト稱スルハ不正ノ甚クシキモノナリ
第三 無用ニ人ノ所作ヲ惡心ヨリ出テタリト
為スヘカラス無用云々ト言フ所以ハ人ノ所作
ニ於テ議論ヲ待タスレテ善心ヨリ出テタリト
為レ難キモノアレハナリ此ノ如キ所作ト雖モ
之ヲ述ヘサルヲ得サル所ハ只其事蹟ヲ述ヘ其

心ノ善惡ニ於テハ各人ヲレテ自ラ之ヲ決セシムルヲ宜トス

右ノ規則ヲ推シテ考フレハ第一所作ノ無罪ノ者タルヲ得ルキ之ヲ鄙陋ノ心ヨリ出ラタリト為スヘカラス第二善事ナリトスル所ノ所作ヲ善心ヨリ出ラタルニ非ラスト為スヘカラス此規則ノ道理ニ合ヘルヲハ試ニ之ヲ己ノ事ニ施スルハ分明ナリ人己ノ所作ヲ評セラル、ニ他ノ規則ヲ用フルヲ願フ者アラレヤ
第四 人ノ癖所ヲ擬似シ或ハ之ヲ嘲笑ニ或ハ

之ニ綽號ヲ命スル等縱テ人ヲモテ輕蔑ヲ受ケシムルノ事ヲ行フテ其敵價ヲ減スヘカラス縱令害ヲ為スノ意ナシト言フト雖モ辨解ノ辭トナル難シ人此ノ如キ事ノ害ヲ為スヲ知ル之ヲ以テ罪アリトスルニ足ル經典ニ曰ク汝ノ言語ノ為メニ汝罪アリト稱セラレ汝ノ言語ノ為メニ汝罪アリト稱セラレハシテ人ハ談話スル所ノ無用ノ言語モ審斷ノ日ニ於テ一々其辨解ヲ為スヘシト少年長者共ニ此經典ノ語ヲ忘ルヘカラスルキハ妄リニノヲ誹謗セサルヘシ

ト
 己ノ品性ヲ損ヒ或ハ隣人ノ害トナルヘキヲ
 喜レテ聞クヘカラス又人ニ之ヲ説クヘカラス

次ニ人ノ害トナル實事ヲ談スルハ妨ナキ事件
 ヲ論ス即チ左ノ如シ

第一 世ノ正道ヲ進メンカ為メニハ之ヲ談ス
 ルハ妨ナシ人ノ社中ニ對シテ罪ヲ犯セルヲ知
 リテ之ヲ匿クス者ハ犯人ノ黨ニ入ルナリ此ノ
 如クハ之ヲ相當ノ官吏ニ告リ罪人ヲシテ詮議

ヲ受ケ罰ヲ蒙ラレムヘシ

第二 無罪ノ人ヲ保護センカ為メニハ之ヲ談
 スルハ妨ナシ縱令ハ甲アリ乙ノ來歴中ニ於テ
 某ノ事アルヲ知リ若シ丙ヲシテ其事ヲ知ラレ
 ムレハ其大害ヲ受クルヲ免レシムヘキ片ハ之
 ヲ丙ニ告ケテ害ヲ避クルノ備ヲ為サシムヘシ
 是其職務ナリ之ヲ行フニ其實事ナリト知ル
 ノ事ノミヲ語リテ上ニ記セル目的按スルニ無
 義スル
 ノ事ヲ為メニマルヲ要ス
 第三 犯人ノ蓋トナル片ハ之ヲ談スルハ妨ナ

レ人惡事ヲ行スラ父母若クハ保人ノ如キ制御
 或ハ教諭ニ因テ其過ヲ改メシムヘキ人ナレバ
 其人ノヲ知ラスレテ過クルルハ其事ヲ報告ス
 ルヲ以テ人ノ職務トス是雙方ニ對シテ好意ノ
 最モ厚キモノニシテ此好意無キカ為メニ人ノ
 子タル者ヲシテ一生ヲ誤ラレムルヲ甚々多シ
 朋友ノ道之ヲ報告スルヨリ厚キモノナク父母
 ノ恩ニ感スルヲ其子々益トナルヘキヲノ報告
 ヲ受クルヨリ大イナルハナシ

第四 人他人ノ惡事ヲ顯ハスノ自由無シト雖

凡犯人ニ對シテ恰モ無罪ノ人ノ如クニ事ヲ行
 フノ任ナレ若レ天人ノ惡事ヲ知ラシメシハ
 人各己ノ為メニ此知識ヲ用フルノ自由アリテ
 縱令之ヲ知ル者ハ己一人ノミナリト雖氏之ト
 交ルヲ避テ可ナリ唯可ナルノミナラス且之
 ト交ルヲ避ケサルヘカラス

第六章

眞實ヲ論ス

實事ヲ談セント欲スルノ志アリテ實事ヲ談ス
 ル之ノ眞實ト云フ

實事ヲ談スルニ或ハ既往ノ事ニ關スルモノアリ或ハ現在ノ事ニ關スルモノアリ譬ヘハ昨日雨降リタリト確言レ或ハ今雨降ルト確言スルカ如キ是ナリ或ハ未來ニ於テ為サント欲スル事ニ關スルモノアリ譬ヘハ人ニ明日一ドルヲルノ金ヲ與フヘント約束スルカ如キ是ナリ脩身ノ道ニ於テ確言ノ罪アルト罪ナキトハ常ニ其志ニ因テ之ヲ決スルモノナリ若シ正直ニシテ實事ヲ談セント欲スレハ縱令謬誤ナリト雖ル虚言ノ罪ナレ若シ欺詐ノ念ヨリ出ルルハ

縱令其言ヲ所實事ナリル虚言ノ罪アリ

真實ヲ論スルニ分テ二條トス第一確言第二約束

第一条

確言

確言ニ於テ真實ノ定則ノ要スル所ハ何事ヲ確言スルル已ノ心中ニ於テ思想スル所ノモノヲ毫厘モ差ヘスレテ人ニ傳フルニ在リ即チ已ノ信スル如クニ事ヲ述フルヲ云フ此條ニ付テ經典ノ教ハ左ノ如シ

曰ク汝隣人ニ對レテ虚妄ヲ説クヘカラス
 曰ク虚言ヲ吐クノ唇ハ天ノ厭惡スル所ノモノ
 ナリ
 曰ク汝ノ舌ヲシテ惡事ヲ談ヒシムル勿レ汝ノ
 唇ヲレテ詭偽ヲ説カシムル勿レ
 曰ク虚言ヲ吐ク者ハ鬼ノ子ト名ツケラル即チ
 鬼ノ所作ヲ效フ者ノ義ナリ
 曰ク總テ虚言者ハ火ト硫磺ニテ燃ユル湖水中
 ニ其住處ヲ得ヘレ
 曰ク虚言ヲ吐ク者ハ決レテ天ニ上ラサルヘレ

天虚言ノ罪ヲ惡ムコトヲ知ラント欲セハ經典ニ
 於テ虚言ヲ吐キレ者ノ天罰ヲ受ケレ事ヲ記セ
 ル条ヲ見ルヘレ
 故ニ左ノ諸件ノ如キハ真實ノ定則ノ禁スル所
 ナリ
 第一 虚謬ナリト知リナカラ之ヲ實事トシテ
 話ス事或ハ何様ノ景況ニ於テモ他人ヲ欺カン
 ト欲スルノ志ヲ以テ話ス事
 第二 實事ナルト否トヲ知ラスシテ之ヲ實事
 ナリト言フ事人實事ナリト知ラサル事ヲ實事

ナリトシテ談スルハ己ノ心ニ存スルコト人ニ
傳フルモノニ非ラス是即チ虚誕ヲ吐クナリ然
ルニ己實事ナラント思ヒシヲ以テ之ヲ實事ナ
リトシテ談セリト言フハ無益ノ託辭ナリ若レ
實事ナラント思ヒレノミナラハ己ノ實事ナラ
ント思フコトヲ告ケテ己ノ心ニ及セル事ヲ人ニ
傳ハサルヘシ
問フ然ラハ實事ナルコトヲ知ルニ非ラサレハ之
ヲ談スヘカラスレテ己ノ意見ヲ吐クハ非ナリ
ヤ答フ否之ヲ為スモ妨ナキコト明カナリ但シ然

ハハ之ヲ己ノ意見ナリトシテ語り實事ナリ
トシテ談スヘカラス
第三 實事ヲ談スレバ他人ヲシテ之ヲ誤解セ
シムヘキ方法善クハ景況ヲ以テ之ヲ語ル事
其方數種アリ即チ左ノ如シ
其一 或ル景況ヲ説ク其實ニ過クル事
其二 或ル景況ヲ説ク其實ニ及ハサル事
其三 或ル景況ハ其實ニ過キ他ノ景況ハ其實
ニ及ハサル事
其四 有ノ儘一實事ヲ述スルハ其順序ヲ方法

ニ因テ人ヲシテ之ヲ誤解セシムル事譬ハハ甲
 アリ乙ノ室ニ入り其去リシ後乙直ニ時辰儀ヲ
 偷マレタルヲ看出セリト言フキハ自然ニ人ヲ
 シテ時辰儀ヲ偷ミン者ハ甲ナリト思ハレム雖
 令實事ヲ述ヘタルニ過キスト雖凡人ヲシテ之
 ヲ誤解センメント欲スルヲ志ニテ語レキハ室
 誕ノ罪ヲ免レス
 虚誕ノ罪ハ其志ヨリ人ヲ欺ムルニ在リ故ニ聲
 音眼色頭首ノ運動或ハ身體ノ形狀等ニテ其罪
 ヲ犯ス可言語ヲ用ルト異ナハトナレ譬ヘハ

若シ旅人アリテボストニ赴クノ路ヲ問ノキ
 之ニ他ノ路ヲ指シ示スキハ言語ニテ之ヲ欺ム
 ノト同様ノ虚誕ナリ
 此定則ハ親疎尊卑ノ別ナク總テ人間ノ交際ニ
 用フヘキモノニシテ父母子ヲ欺ムクヘカラス
 子父母ヲ欺ムクヘカラス師弟子ノ欺ムクヘカ
 ラス弟子師ヲ欺ムクヘカラス老人少年ヲ欺ム
 クヘカラス少年互ニ相欺ムクヘカラス買主續
 主ヲ欺ムクヘカラス賣主買主ヲ欺ムクヘカラ
 ス政事家己ノ黨ヲ欺ムクヘカラス亦其敵黨ヲ

欺ムクヘカラス之ヲ概スレハ此任ハ普子ク人
 ニ及ホスモノニシテ親族他人ノ間ヲ論ヤス總
 テ之ヲ守ラサルヘカラス
 假令聽者實事ヲ知ルヘキノ權ナレト雖凡之ヲ
 以テ虚誕ヲ吐クノ^{辨解}トナレ難レ然ル片ハ之
 ニ對レテ其事ヲ説カサルハ其理アレ凡虚誕ヲ
 吐テ之ヲ欺ムクノ理ナレ譬ヘハ人我ヨリ取ル
 ハキノ理ナキ片ハ其需ニ應レテ之ヲ與ヘサル
 ハ其理アレ凡之ヲ騙シテ其所有ヲ奪フノ理ナ
 キカ如レ

眞實ヲ守ラント勉ムルノ大事ナルヲハ實ニ之
 ヲ算スヘカラス戯レニ虚言ヲ吐キ若クハ事ヲ
 談スル其實ニ過ルヲ樂トシ或ハ之ニ因テ人心
 ヲ感動セシメントスルノ惡事タルハ之カ為メ
 ナリ戯レニ虚言ヲ吐ク者ハ久レカラスシテ實
 ニ虚言ヲ吐クニ至リ終ニハ常慣ノ虚言者トナ
 ルヘシ故ニ人各小事ニ於テモ眞實ヲ守リ毫厘
 モ之ニ差フヲ勿レ人已ニ克チ或ハ他人ノ所
 ヲ抑制スルノカヲ得ルヲ眞實ノ徳ヲ修ムルニ
 如クモノナカルヘシ

實ニ此ノ如キキハ人ニ靈言ヲ吐クコトヲ教ノル
ノ大惡事タラサルヲ得ス父母及ヒ乳母ノ一時
教戒ヲ加ヘシカ為メニ權リニ靈誕ノ語ヲ以テ
小兒ヲ嚇レ又客ノ来リレキ家ニ在リト雖凡之
ニ逢ノノ煩勞ヲ避ケレ為メ其兒女若クハ婢僕
ニ命シテ家ニ在ラスト言ハシハルハ是ナリ商
人滯店ニ命シテ他ノ價ニテ買ヒシ物ヲ某ノ價
ニテ買ヒタリト客ニ告ケシムルモ亦然リ此ノ
如クシテ己ニ委託セシ人ヲ損ヒ壞ル者ハ何ヲ
以テ天ニ答フルヲ得レヤ且ツ故意之ニ靈言ヲ

吐クコトヲ教ヘシ人ノ何ヲ以テ己ニ實ヲ告グル
ヲ期望スルヲ得レヤ

第二條

約束 契約

第一 約束ヲ論ス

約束トハ己ノ志ヲ人ニ告ケ好シテ人ヲシテ期
望ノ念ヲ生マシムルモノナリ
真實ノ定則ニ從ハハ此志ヲ語ルニ己ノ心ニ思
フ所ノトト少レモ差フハカヨス人實ニ志アリ
テ之ヲ語ルアリ或ハ之ヲ語レバ實ハ之ヲ行フ

ノ志ナキアリ。此事ニ於テモ人ハ虚言ヲ吐クノ自由ナキ。他ノ諸事ニ異ナル。ナレ。此志ヲ語り人ヲシテ期望ノ念ヲ生セシメレキハ其言ヲ差ヘス之ヲ行フノ任ヲ負フモノナリ。即チ己ヨリ好ダシ生セシメタル期望ニ應シテ之ヲ行フヲ其職務トス。故ニ約束ハ約束ヲ為ス者ノ目的トスル所ニ從テ其用ヲ為スモノニ非ラス其故ハ目的トスル所言フ所ト齟齬スル。アレハナリ亦約束ヲ受クル者ノ心ニ了解スル如ク其用ヲ為スモノニ

非ラス若レ然ルキハ人ノ甚タレキ期望ヲ起シテ際限ナカルヘシ畢竟約束ヲ守ルノ任ハ己好シテ期望ヲ生セシメシニ因ル故ニ己ノ生セシメタル期望ヲ達セシムレテ其職務トス。是ヲ以テ約束ニ於テモ確言ニ於ル如ク所作形狀顔色ヲ以テ之ヲ行フ。落カ言語ヲ用ラルト等レキモノアリ譬ヘハ糶賣ニ於テ點頭スルヲ價ヲ出スノ符號トスルキハ點頭スル者ハ言語ヲ以テ價ヲ出スヘシト約スルニ同シ總テ他ノ方法若クハ所作ニ因テ人ノ期望ヲ起スモノモ

亦然

然レモ約束其用ヲ為サルノ時アリ茲ニ其一
ニヲ載スルヲ適當トス

其一 約束ヲ遂クルヲ能ハサル時若シ其事中
途ヨリ變シテ實ニ己ノ力ヲ及ハサルニ至レ
ハ之ヲ行フノ任ナシ然レモ預メ行ヒ難キヲ知
テ約束ヲ為スキハ虚言詭騙ノ罪ヲ犯スモノニ
シテ人ノ失望ヲ償ハサルヘカラス

其二 約束ヲ遂クルノ法ニ背ク時人為スヘカ
ラサル事ヲ行スノ任ナシ然レモ約束セザル以

前ニ其法ニ背クヲ知リ若クハ知ルヲ得ヘキ

事ニシテ對テ對手ノ之ヲ知ラザリレバハ之ヲ欺ム

クノ罪アリテ其失望ヲ償ハサルヘカラス若シ
對手モ亦其事ノ法ニ背ケルヲ知リンバハ之ヲ

償フノ任ナレ譬ヘハ人ト共ニ盜賊ヲ行ハント
約束スルモハ之ヲ破ラサルヘカラス然レトモ
盜賊ヲ行フテ獲ヘキ所ノ物ヲ償フノ任ナキヲ
必定ナリ

其三 自ラ好シテ人ノ期望ヲ起スニ非ラサレ
ハ約束其用ヲ為サス例セバ此ニ甲アリテ其乙

ニ語テ曰ク我丙ニ吾馬ヲ與フヘント然レトモ
乙アレテ之ヲ丙ニ傳ヘシメント欲スルノ意ナ
キハ乙甲ニ告クスレテ之ヲ丙ニ傳フレハ甲約
束ヲ遂クルノ任ナシ若レ甲乙アレテ之ヲ丙ニ
傳ヘシムルハ自テ之ヲ告クシト同様ノ任ア
リ
其四 約束ノ由テ起リタル事情ノ後ニ虚誕ナ
リト知ル、片ハ約束其用ヲ為サス譬ハ乞兒
ノ話ヲ信シテ之ニ錢ヲ與ヘント約シ後ニ其話
ノ虚誕ナリト知ル、片ハ軍初ノ約束ヲ守ルノ

任ナシ

右ニ載スル所ハ用ヲ為サ、ル約束ノ殊ニ緊要
ナルモノナリ時トシテ約束ヲ遂クルカ為メニ
不便ノ起ルヲアレ凡之ヲ以テ其任ヲ免レス何
人ニテモ自ラ好シテ為スニ非ラサレハ約束ヲ
ルヲ要セス然レ度一度約束セシ片ノ脩身ノ道
ニ於テ之ヲ免ルスニ非ラサレハ約束ヲ遂クル
マデバ其任ヲ負ノモノナリ是ヲ以テ又約束ヲ
為スニ謹慎ヲ尽クシ熟考スルヲ待タスレテ
卒ニ之ヲ為スヘカラス試ミニ看ヨ容易ニ約束

又為サハルノ人ハ必ズ之ヲ逸クルニ於テ最モ
謹慎ナルノ人ナリ

第二 契約ヲ論ス

雙方相互ニ約束スル之ヲ契約ト云フ即チ一方
ニ於テ某ノ事ヲ為スベキ約束ニテ一方ニテモ
亦其代ニ某ノ事ヲ行フヘシト約束スルモノナ
リ
契約ヲ述フルノ規則ト之ヲ守ルヘキノ道理ト
其用ヲ為サハルノ時トハ約束ニ於ルカ如シハ
契約ニ於テハ約束ニナキ所ノ一種ノ箇條アリ

テ之カ為ノ雙方ノ任ニ定限アルヲ以テ約束ト
異ナリトス

契約ヲ結ビタル後一方ニテ其職分ヲ守ル間ハ
一方ニ於テモ亦其職分ヲ守ルノ任アリ然レモ
孰レノ方ニテモ之ヲ破ルルハ約條ニ必要ナル
箇條ノ缺ルヲ以テ對手之ヲ守ルノ任ノシ加之
對手之カ為スニ損凶ヲ受クルルハ職分ヲ破リ
タル者之ヲ償フノ任ヲ負フヲ常トス
通常ノ規則ハ此ノ如シト雖モ別ニ注意スヘキ
規則外ノ事アリ即チ造物者ノ定メタル契約是

ナリ譬へハ婚姻ノ契約人間交際ノ契約ノ如シ
此ノ如キ事ニ於テハ孰レノ方ニテモ對手ノ職
分ヲ守ラサル丁アレハ必ス其任ヲ免ル、モノ
ニ非ラス只天ノ定メタル原因ニ由テ之ヲ免ル
、コアルノミ
眞實ヲ守ルノ任ハ各箇ノ人互ニ約ヲ結フニ於
テモ社中ト社中トノ約ヲ結フニ於テモ異ナル
所ナレ社中其約束ヲ守ルノ任アルコト各箇ノ人
ノ如ク文明ノ人民野蠻ノ人民ト盟約ヲ結ヒタ
ル片之ヲ破ルヘカラサルコト文明ノ人民ト盟約

ヲ結シタルカ如ク又各箇ノ人互ニ約條ヲ結ビ
タルニ同レ之ニ反スル行ヲ為スルハ何等ノ口
實アリテ之ヲ飾リ若クハ何様ノ威カヲ以テ之
ヲ支持スルニ其鄙劣ニレテ賤ムヘキコト其恥ヲ
知ラスレテ且ツ暴惡ナルカ如シ

市川清流 校

東京芝大神宮前

和泉屋市兵衛

脩身論後編卷一終

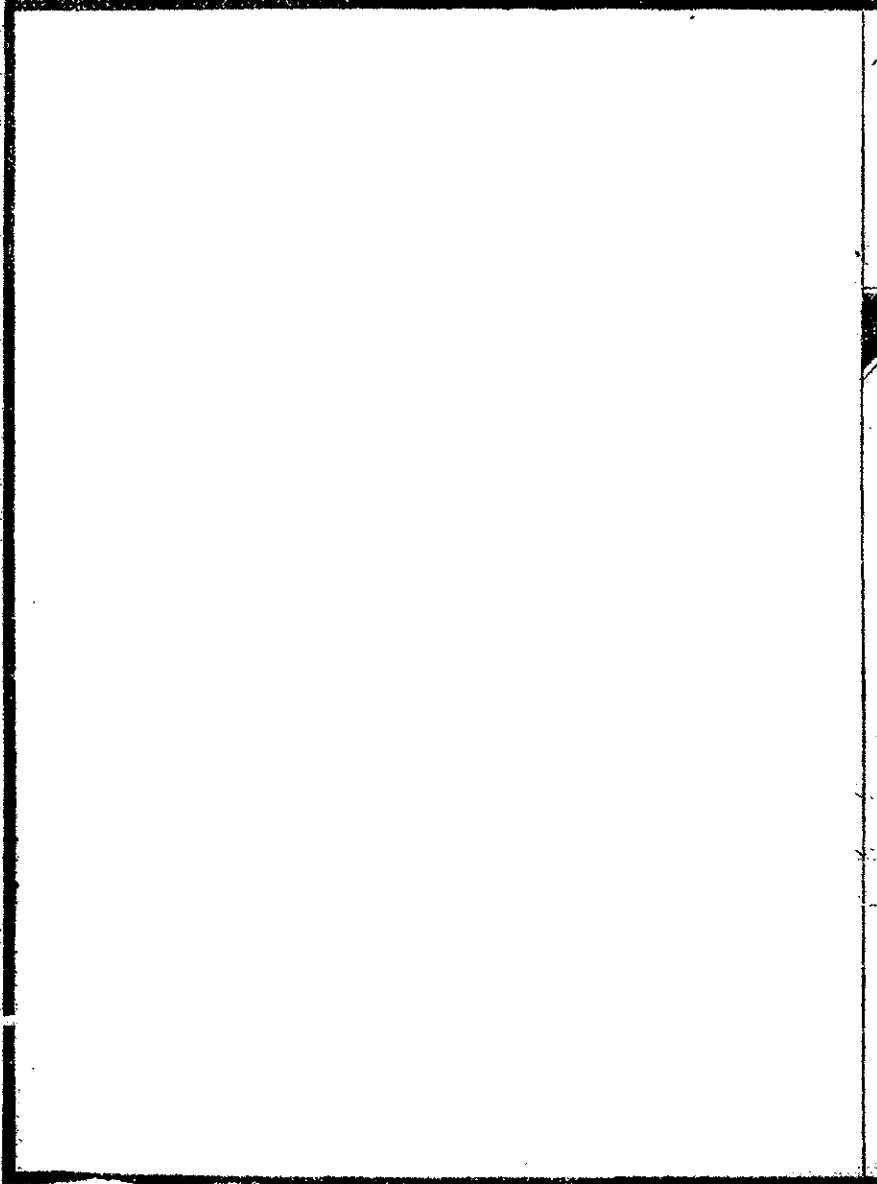
脩身論

後編卷一

五九

介
言

後
考



Vertical line of text or markings on the left side of the page, possibly a page number or a reference mark.